

株式会社高島屋（CSR 推進室）高島屋史料館 TOKYO
鈴木 茜（2016年3月卒業）

新入生の皆さん、この度はご入学おめでとうございます。これから充実した学生生活を送られることと思います。大学での四年間はあっという間に過ぎていきますが、その後の人生に影響を与えるような重要な四年間であり、高校時代とも社会人になってからとも異なる、貴重な時間だと私は思います。大学を卒業して数年経った今、より一層強くそう感じています。

私は、四年前に皆さんと同じ英米文学科を卒業しました。卒業後の三年間は、ビアトリクス・ポター資料館にて勤務し、現在は株式会社高島屋の史料館で勤務しています。私は大学在学中に学芸員資格を取得しました。正直なところ、当時は学芸員として就職することは難しいだろうと考えていました。もちろん目標には掲げていましたが、学芸員の就職率の低さはずっと言われてきたことだったからです。それでもほんの少しの希望を抱いて、資格の取得に励みました。学芸員資格の取得は、数少ない「私が大学時代に頑張ったこと」の一つだったと振り返ります。学芸員に限らないことだと思いますが、資格の取得は想像していたよりも大変でした。時間割が友人たちと合わずずれ違いになったり、自分だけ土曜日に授業があったり、帰りが遅くなったり、卒業単位として数えられない授業があったり…。それでも自分で納得して選択したことだったので嫌になることはなく、楽しく勉強していたことを覚えています。四年間の努力が実り、卒業後に就職したビアトリクス・ポター資料館では学芸員として勤務しました。全く予想していなかったことで、諦めずに資格の取得に励んできてよかったと心から思いました。ちなみに現在の職種は学芸員ではありませんが、学芸員としての職歴があるからこそ任せてもらえる業務があり、何よりも自分自身が誇りを持って働くことができています。4年前の私は、自分がこのような人生を歩むことになるとは思ってもみませんでした。更に遡ること8年前、つまり大学へ入学した時には就職のことすらまだまだ考えていませんでした。就職に対する意識が周りの学生よりも低かったことは、当時の自分も自覚していました。

入学生の方が今の時点で、就職に向けて順調に歩んできた方々のお話を聞くことは勿論大切なことだと思います。素晴らしい将来を想像して、モチベーションも上がります。しかし、学生時代の私自身の気持ちを思い返した時、そうでない人の話も聞いてみたいかも、と考えたのでした。私の話が何か後押しになったり、「自分でもやれるかも」と思えるきっかけになればいいなと思っています。大学生活において私が皆さんに伝えたいことは、今やりたいこと・今できることに全力で取り組んで欲しいということ、周りの状況に焦らずマイ

ペースで気楽に進んで欲しいということ、自分自身としっかり向き合ってみて欲しいということです。先述の通り、私が大学の四年間で一生懸命打ち込んだことは、そう多くありません。当時、周りの友人の様子と比べては「これで大丈夫なのかな」と思うことが何度もありました。それでもマイペースに突き進んできたのは、「なんとなく」何かをすることが自分の性には合っていないからなのだと思います。そして現在、当時の自分に対する嫌悪感や後悔は特にありません。むしろ真面目に頑張った数少ないことが、現在の自分にとっては欠かせないことだったと感ずることが多々あります。私が頑張ったのは入学当初から目指してきた学芸員資格の取得と語学研修、アルバイト、英文学会での活動です。そして十分に遊びました。大好きな映画も沢山観に行きました。これらの一つ一つの経験が、今の自分を形成していると言っても過言ではないと思っています。

大学生活において、無理をして沢山のことに打ち込む必要はないと私は思います。それよりも自分の性格を理解して、自分にとって必要であろういくつかのことを見極めることが大切なのではないかと考えます。ここで間違えてはいけないのが、マイペース≠不真面目ということです。何もせずなんとなく過ごすのではなく、今出来ることや今やりたいことに一生懸命、真面目に、楽しく打ち込んでみてください。皆さんの大学生活が最高の四年間になりますように。

大学職員を選んだ理由と英米文学科の後輩たちへ

大東文化大学職員（入試広報課） 阿藤哲也（2019年3月卒業）

① 大学職員を選んだ理由

大東文化大学英米文学科新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は皆さんが今、通っている大東文化大学で職員として働いております。私がこの道を選んだ理由としてはこの大学に愛着があることはもちろんのこと、英米文学科で過ごした4年間の経験が大きく影響しています。特に、英文学会の運営委員としての経験が非常に大きいです。英文学会とは、毎年春と秋、この学科の専門の先生からご講演をいただき、学びを深め、そののちに行われる懇親会を通して講師の先生、また英米文学科に所属する学生たちと親交を深めるために行われるものです。秋の学会では、各ゼミを代表する学生が班に分かれて、講演の内容に沿って調べたことを発表する時間があります。発表の準備の過程で、人と協力して何かを成し遂げていく楽しさや喜び、やりがいを学び成長することができました。その中で、毎週夜遅くまで指導していただいた担当の先生のように、学生が成長するチャンスをサポートしてあげたいと思いました。最も成長する機会がある場所またそのチャンスを捨ててしまっている人が多い場所、それが大学であると考え、この職業を志望することを決めました。

② 後輩の皆さんへ

大学生活を充実させる上で皆さんに2つアドバイスがあります。

一つは「迷ったら、とりあえずやってみること」

何かを続けることはとても大変なことです。しかし、どうせ続かないからとチャンスを手放してしまうことはさらにもったいない。とりあえず「興味があるな」と少しでも思ったらぜひチャレンジしてみてください。その経験が今後の人生を変えてしまうかもしれません。

二つ目は「たくさんの人と関わること」

世の中にはたくさんの方々の考え方をを持った人がいます。その中にはこの人苦手だなと思う人や、関わりたくないと思う人がいるかもしれません。そのような人たちも含め様々な考えを持つ多くの人とかかわっていくことで、今まで見えなかった自分の一面やなりたいたい自分、将来について見えてくることがあります。大東文化大学では1、2年生は全学部・全学科が東松山キャンパスに通うので、学部・学科を超えて多くの人たちと交流してみてください。

大東文化大学の一職員として、皆さんが卒業するときに「この大学に来てよかった」と言って卒業しることを願っています。

市役所への就職にむけて

大塚 香苗（2019年3月卒業）

私は、地元である埼玉県本庄市役所から内定をいただくことができました。

3年生になり進路を考えたときに、図書館司書の仕事に興味があり、公務員の仕事について情報を集めたことがきっかけで市役所を受験することを決めました。本庄市役所では、興味を持っていた図書館の仕事も行っており、その他にも社会教育にかかわる仕事など、自分の関心のある仕事をすることができると感じました。

受験を決めて、まず行ったことは筆記試験の勉強です。3年生の前期からダブルスクールの公務員講座を受講しました。初めは講座の予習や復習を中心にを行い、3年生の夏休みから問題集や過去問を解き始めました。まずは問題の解き方などの理解を優先し、3年生の春休みから時間配分を考えて解くようにしました。4年生になると本庄市以外の自治体の試験を受けて場慣れをしながら、9月の筆記試験にむけて勉強をしました。試験を受けてみて、公務員試験は範囲が広いので、よく出る問題は絶対に解けるようにしておくことが重要だと感じました。

本庄市では、筆記試験のあとに集団討論と面接があります。集団討論については講座の中で実際に討論の練習をして、面接については学校のキャリアセンターで相談をしました。また、一般企業の面接を受けて面接に慣れるようにしました。面接では、上手く答えられなかったと思う質問もありましたが、次の質問では切り替えて最後まで諦めずに答えるようにしました。

内定が決まったのは12月になってからです。焦りもありましたが、9月の筆記試験までは試験の勉強に集中して、10月になったら面接と並行しながら一般企業を受けようと決めて取り組みました。周りの人と相談したり情報を集めたりして、そうした計画をたてることで、迷いをなくして試験の勉強を行うことができました。皆さんも、早いうちから進路について考えて自分のやりやすい方法で進路の実現にむけて頑張ってください。

教員採用試験にむけて

葛飾区立新小岩中学校 勤務 今野 豪哉 (2019年3月卒業)

私は、中学生の頃からの夢であった、教員になることができました。

「先生になりたい」と初めて思ったのは中学2年生の時でした。部活動で後輩ができた時、人に伝えることの楽しさを感じたのがきっかけです。そこから、先生を意識するようになり、担任の先生が親身になって相談に乗ってくれたり、アドバイスをくれたりしている姿を見て「こんなふうになりたいな」と考え始めました。

大学生になって、教員になるためには何の試験を受けなくてはならないのか調べることから始まりました。教員採用試験は自治体ごとに受験することや、その方式が自治体によって違うことなどはこのときに初めて知りました。そして地元で受験するか、東京で受験するか悩みましたが、日本の中心である、東京で働きたいと考え東京に決めました。

実際に教員採用試験を意識して勉強を始めたのは三年の後期からです。どこの自治体にもある教職教養を中心に、自分の専門教科の英語も並行して勉強しました。私の場合、まずは机に向かうことを習慣にするために、毎日必ず図書館や自習室に行くようにしました。試験までは勉強しておくべきことがさまざまあると思いますが、コツコツと積み重ねることが大切だと思うので、習慣にすることを意識したほうが良いと思います。

自分が受ける自治体を決めたら、そこでよく出ている問題を知ることが必要になります。実際の問題を解いてみたり、教職センターの方に聞いてみたり、情報を集める方法は沢山あります。自分が良いと思う方法で取り組んでください。私はよく出る分野の問題を2種類の問題集から集めノートにまとめたりしました。

論文対策や、面接対策は教職課程センターを活用すればいいと思います。同じく教員を目指す仲間がいるので、いろいろな考え方を知ることができます。教員になったときにも役に立つと思います。

教員採用試験の結果がでるのは、一般企業よりも遅いので、焦る気持ちも出てくると思います。しかし、教員にどうしてなりたいたのか、自分の気持ちを整理したり、一緒に教員を目指す仲間を見つけたりすることで頑張れたと思います。また、自分の趣味の時間なども大切にしてください。メリハリが生まれ、違う角度から新しい見え方もできると思います。是非、自分の目標を達成できるように頑張ってください。

